

平成29年度 1学年 総合的な学習の時間（普通科普通） 「課題研究ガイダンス」

大学の研究者から研究の進め方に関する専門的な講義を受けることで、課題研究に対する理解を深め、課題研究を円滑に進めることを目的に、11月22日（水）、広島大学生物生産学部 准教授 西堀 正英先生を講師にお招きし、課題研究ガイダンスを実施しました。

1学年、普通科・普通の「総合的な学習の時間」では、4月から「新聞切り抜き作品」の制作や「広島大学訪問及び発表」「小論文の書き方」等を学習してきました。そして、それらを通じて、情報収集力や批判的思考力、文章表現力や発信力等を養ってきました。

「課題研究」は自らテーマを決め、問を立て、答えの用意されていない課題に取り組む活動です。生徒たちは、初めて行う「課題研究」に対して不安もあったと思いますが、西堀先生の御講演を通じて不安や苦手意識が払拭され、「課題研究」に対して興味・関心が高まり、前向きになれたようです。



～生徒の感想より～

- ・課題研究では「どうして？なぜ？」と疑問に思うことが大切なのだとわかりました。
- ・これまで課題研究のことが全くわからずにいたので、今日の講義でとても興味を持ち、早くやってみたいと思いました。
- ・何に取り組むにしても上達するためには、好きであること、よく観察すること、やってやるぞという心が大切なのだとわかりました。
- ・課題研究は何となく難しそうだと思っていたけれど、お話を聞いて身近な所からも様々な発見ができることがわかり、やってみたいという意欲が高まりました。
- ・ただ見るのではなくて、よくよく観察するということが大切だとわかりました。
- ・普段から「観察する目」をしっかり自分の中に作り「観察→仮説→検証→考察」のサイクルを意識して生活していきたいです。
- ・身の回りにある当たり前のことでも違う視点から見ればいろんな疑問が出てくるのだと思いました。
- ・「好きこそものの上手なれ」という言葉が印象に残りました。興味を持ったことをとことん調べることで、相手に説得力のある課題研究をすることができると思いました。
- ・「右の説明をする」ときに、普段常識のように使っている単語こそ説明が難しいことを実感しました。
- ・課題研究は、自分の興味を他人の興味にすることが最重要だということに、なるほどと納得しました。
- ・お話を聞けば聞くほど、疑問点や調べたいことが増えてきて、大変おもしろかったです。



西堀先生の御講義が進むにつれ、生徒たちは普段の学校生活で見せるものとはまた違った、生き生きとした表情になっていきました。「課題研究」は年明け以降、グループ分けをして本格的に始まります。生徒たちは2年次・2月の「課題研究成果発表会」に向けて、試行錯誤しながら準備を進めていきます。